

**がん治療と仕事の
両立支援セミナー**

がんと診断されたら、
暮らしは？仕事は？雇用は？

働き続けるためにできること

報告書

NPO法人キャンサーリボنز

2016年10月

実施概要

本セミナーは、がん治療と仕事の両立に関する理解促進を目的として、MSD株式会社、NPO法人キャンサーリボnz、鳥取県立図書館が共同で企画・実施しました。

■名 称 がん治療と仕事の両立支援セミナー
「がんと診断されたら、暮らしは？仕事は？雇用は？働き続けるためにできること」

■日 時 2016年9月10日(土) 13:30～16:15(受付開始 / 13:00)

■会 場 鳥取県立図書館 2階大研修室 (鳥取県鳥取市尚徳町101)

■参加者数 【 84名 】

＜参加者内訳＞

一般(患者さん・ご家族、企業(後援団体含む)など)	60名
講師	5名
メディア2社 (NHK鳥取支局 3名、日本経済新聞鳥取支社1名)	4名
手話通訳	2名
主催者(MSD様 2名、鳥取県立図書館 2名、NPO 4名)	8名

一般参加者の中には、患者さんとご家族の他、後援団体(鳥取県健康福祉課、政策金融公庫鳥取支店、鳥取県看護協会)、鳥取県中小企業労働相談所みなくる鳥取(商工労働部)や鳥取産業保健総合支援センターなど、県や企業(アフラック鳥取支社)からの参加もありました。

NHK(鳥取)と日本経済新聞社(鳥取)の取材が入り、当日NHKニュース(18:45～ 19:00)にてセミナーの様子が放送されました。また、日本経済新聞でも9月22日(木)朝刊で、鳥取県のがん治療と就労両立支援の取組みとして紹介されました。

■主 催 NPO法人キャンサーリボnz、鳥取県立図書館、MSD株式会社

■後 援 鳥取県、国立大学法人鳥取大学、鳥取商工会議所、倉吉商工会議所、米子商工会議所、境港商工会議所、鳥取県商工会連合会、鳥取県中小企業団体中央会、一般社団法人中小企業診断士協会、鳥取県中小企業家同好会、公益財団法人鳥取県産業振興機構、日本政策金融公庫鳥取支店、鳥取県医師会、鳥取県看護協会、鳥取県薬剤師会

実施概要

(一部敬称略)

＜プログラム＞ 司会：NPO法人キャンサーリボنز 副理事長 岡山慶子

■開会挨拶

鳥取県福祉保健部健康政策課長 影山知也

開会に際し、鳥取県福祉保健部健康政策課長 影山知也さんより頂戴したメッセージをNPO法人キャンサーリボنز 副理事長岡山慶子が代読させていただきました。

『今日は、「がん治療と仕事の両立支援セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、本県のがん対策につきまして、関係者の皆さまには、日頃よりご協力いただき、厚くお礼申し上げます。今回のセミナーでは、「がん治療と仕事の両立」がテーマとなっておりますが、皆さんもご承知のとおり、日本人の2人に1人が生涯のうちにがんにかかる時代であり、鳥取県においてもがんにかかる方が年々増加傾向にあります。

こういった状況のなか、従業員の方ががんになるリスクも高くなり、従業員ががんになった際の対応が企業経営を行う上で、重要な課題となっております。

近年は、がん医療の進歩により治療しながら働くことが可能となってきていますが、治療をしながら働き続けるためには、経営者をはじめ周囲の人たちの理解のもと、柔軟に働ける環境づくりと、就労支援をうけられる社内風土を築くことが重要になります。

今回、専門医、がん経験者、産業医、図書館司書等様々な立場からお話いただくことになっています。

周りで悩んでおられる方がおられましたら、是非、情報発信していただけたらと思います。

今後とも、本県のがん対策にご協力を承りますよう、よろしく願いいたします。』

■開会挨拶（主催者挨拶）

NPO法人キャンサーリボنز 副理事長 岡山慶子

MSD株式会社 医療政策部門 公共・産業政策グループ課長 片岡和真

セミナー主催者として、NPO法人キャンサーリボنز副理事長 岡山慶子、MSD株式会社 医療政策部門公共・産業政策グループ課長 片岡和真さんよりご挨拶いただきました。



【医師による講演】

■がん治療の今：がん治療しながら働くことはできるのか？

鳥取大学医学部附属病院 がんセンター 大山 賢治

がん罹患した後の治療や副作用、がんと診断された後の気持ちや緩和ケアを中心に、がん治療の両立についてご講演いただきました。

病気を受け止めた上で、「仕事にやりがいを持つ、副作用や痛みのコントロールをしっかりする、周囲とコミュニケーションを取る、正確な情報の把握」を心得ることが、無理をせず治療と仕事を両立するポイントとのことでした。

また、最寄りの医療機関までの遠さや、医療用麻薬を使用した場合の自動車の運転等、鳥取の地域性を考慮した注意点についてもご説明をいただきました。



実施概要

(一部敬称略)

【体験者による講演】

■体験談:がんのその後の人生設計

中川企画建設株式会社

厚生労働省委託事業 がん対策推進企業アクションアドバイザーボードメンバー 阿南 里恵

がんと診断された後の離職や就職について、ご自身の反省点を交えながら体験談をお話いただきました。

ご自身の復職の際、主治医だけでなくキャリアコンサルタントにも相談。出来ることと出来ないことを整理した上で、広い視野をもって自分の本質を活かす仕事にチャレンジできた等、具体的な両立のヒントをお話いただきました。病気の開示と困難の想定が、両立をスムーズにするとのことでした。



【産業医による講演】

■仕事と治療の両立のための、マイプランづくり

NPO法人キャンサーリボンズ理事 癌と働くプロジェクトリーダー

荒木労働衛生コンサルタント事務所所長 産業医 荒木 葉子

がんと診断されてから復職までの各ステージにおける治療と仕事の両立のためのポイントの他、就労に関するがん情報や事業場における両立支援の現状についてお話いただきました。

患者本人が主体となり、治療を理解し、復職に際しては職場事情を医療者に伝え、職場には病気の情報を整理して伝えることの重要性をご説明いただきました。また自己管理をしやすい両立支援ツール「がんと働く」リワークノート（NPO作成、参加者全員に配布）の効果的な使い方も紹介しました。



【図書館司書による講演】

■『医療・健康情報サービス』の取り組み 鳥取県立図書館司書 佐伯 真由佳

鳥取県立図書館の、がんに関する蔵書（病気、治療、薬、医学用語、闘病記など）と医療・健康情報サービス、就労支援情報についてご紹介いただきました。

また、医療情報提供のためのネットワークとして、鳥取大学医学部図書館・県立病院図書館・鳥取県看護協会・薬剤師会等との連携や、専門的な情報探しのお手伝いとして、リファレンスサービスの活用についてもご案内いただきました。



【県による講演】

■『鳥取県における就労支援』について

鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課 保健師 岡田 桂子

鳥取県のがんをとりまく現状と、がん患者労働相談ワンストップサポートの取り組みを中心に就職支援事業についてご説明いただきました。

その他、がん検診パートナー企業推進事業や出張がん予防教室、ウィッグ・補正下着購入費用補助等についてもご案内いただきました。



実施概要

(一部敬称略)

■閉会挨拶（主催者挨拶）

鳥取県立図書館 館長

福本 慎一

働き方改革実現会議設置のニュースの中で、俳優でがん体験者の生稲晃子さんがメンバーに参加することに触れ、国が働き方を見直す中で、がん治療と仕事の両立を重要テーマと考えている表れだとお話しされ、今日のセミナーは、充実かつタイムリーな内容との感想をいただきました、



今回の、図書館とMSDさんとキャンサーリボンズさんの連携による鳥取でのセミナーが、各地の図書館に広がるきっかけになれば、と締め括りました。

＜その他事項＞

■がんにに関する情報の展示

鳥取県立図書館の医療・健康情報コーナーに設置しているがんに関する蔵書と、国立がん研究センター等から取り寄せた小冊子、ウィッグの他、講師が感銘を受けた本や著書などを会場に展示しました。



■メディア取材

NHK（鳥取放送局）と日本経済新聞社（鳥取支局）の取材が入り、当日のNHKニュース（18:45～19:00）で放送されました。



■その他

聴覚障害者の方のために、鳥取県立図書館を通して手話通訳を依頼しました。

実施概要（「質問タイム」での、質疑応答）

会場からの質問に答える「質問タイム」では、質問内容に合わせ各講師にご回答いただきました。

＜主な質問内容と回答＞

■大山医師への質問

Q1. がんの痛みのコントロールはできるか。どのがんでもコントロールできるか？

A1. 痛みは全て対応できる。コントロールの方法は薬、放射線治療、神経ブロックなど。コントロールが難しいケースでは、緩和ケアチームで対応する。

Q2. 主治医が忙しそうで相談しにくい。主治医外に相談しても大丈夫か？

A2. ご自身の命がかかっている、遠慮せずに相談してほしい。
午前中は大変忙しいので、午後の診察に変更すると比的時間の余裕がある。
また看護師に相談するとフィードバックされることもある。
他の医師への相談も、看護師を介して可能。

Q3 . 職場に迷惑をかけたくない。治療の曜日は変更できるか？

A3. 外来の診察時間は医師の都合がつく、時間の変更は可能。
病院全体のスケジュールに関わるCT、MRIなどの検査は変更が難しい。
治療についてはスケジュールが決まっているため、始まると変更ができない。開始時期は調整できるので決まった予定がある場合は前もって伝えておくと都合がつけやすい。

Q4. 痛みが強くなるとがんが進行していると知り合いに聞いた。仕事を辞めた方がいいか？

A4. 必ずしもがんの進行と痛みは一致はしない。仕事を続けるかどうかは自分の気持ちに副えば良い。
いろいろ考えながら、相談しながら決めてほしい。

Q5. セカンドオピニオンをお願いした場合、治療開始前であれば最初の医師にお願いできるか？

A5. もちろん大丈夫。それがセカンドオピニオン。医師も、他の病院でも同じ意見だと分かれば安心して治療を進めることができる。ぜひ実践してほしい。

【体験者 阿南さんへの質問】

Q6. 会社の後輩ががんになった、本人が周囲の人に知らせていない場合のサポートの仕方は？

A6. がんの公表は、人によって時間差がある。10年経っても公表できない人もいる。経験上、公表した方がサポートしてくれる人も増えると考えているが、本人にとって苦痛が大きい場合は焦らせないことが大事。

療養後に職場復帰する場合、療養中も職場とのコミュニケーションがとれていたかどうか大きい。
自分が休んでいる間に職場と連絡を取ると戻りやすい環境になる。

患者会などの活動に抵抗がない場合は、そういう集まりを紹介したり、同じ病気を体験した方を会わせるサポートの方法もある。



実施概要（「質問タイム」での、質疑応答）

■荒木産業医への質問

Q7. 勤務先が小さな会社で、がんを治療しながら働いている人はいない。産業医、人事総務の選任者もいない。
がんになったら誰に相談したらよいか？

A7. 鳥取県の場合は、先ほど鳥取県の講演の中で紹介されたワンストップサポートが使える。
悩みの内容によって相談の場所や相手が違うが、50人以上の事業所であれば、産業医の雇用が義務付けられているので、産業保健職は誰かいる。
今年2月にがんと就労のガイドラインができて勉強を始めた産業職も多い。
産業医としてもこれからの課題。

まずは（リワークノートなどを活用しながら）医療と仕事の情報の整理をし、自分の悩みを明確化することが大切。
その他、正しい情報収集として、キャンサーリボンズや対がん協会等のホームページからの情報や、鳥取県立図書館を活用して相談しながら情報収集もできる。

■司書 佐伯さんへの質問

Q8. NP0で以前アンケートを行った際、がんになったら「図書館で情報を収集する」という回答が多かった。図書館で情報を収集する利点は？

A8. 図書館には、どなたでもいつでも来ていただける敷居の低さがある。
何の準備もなく来ていただけるので、最初の情報収集の入り口として良いと思う。



■県・健康政策課 岡田さんへの質問

Q9. がんを治療しながら働くことへの地域性があるのでは？この土地ならではの方法などあれば教えてほしい。

A9. 治療する機関の所在地に偏りがあるので、治療を受け人の負担が大きい。相談で個別に対応していきたい。

A9. 立ち止まって相談する、というアクションが非常に大事。
県民性からか、鳥取の人は患者さんや家族内で病気のことを秘めていることが多い。
困っている、という声 を上げてほしい。
(県内のがん診療連携拠点病院・相談員の方からのご意見)



2016年8月19日(金) 毎日新聞(鳥取版)

あゝ抱腹し世情
腹はく早のホー

鳥取県鳥取市 嶋崎 伸太郎

・優秀な若手は、最近、
民間企業へ就職する者
が少なく、むしろ、
公的機関に入社する者
が増えている。これは、
民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。

・民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。これは、
民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。

・民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。これは、
民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。

・民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。これは、
民間企業は、給与が低く、
福利厚生が薄いため、
公的機関は、給与が高く、
福利厚生が充実している
からである。

2016年(平成28年) 8月 2日

日本海 朝日 **読売** 日本経済 山陰中央新報

がん治療と仕事 両立情報を提供

来月10日 県立図書館

「がん治療と仕事の両立支援セミナー」が9月10日午後1時30分～4時15分、県立図書館(鳥取市国府町)で開かれる。企業の人事や

労務の担当者らの参加も呼び掛けている。参加申し込みは8月31日まで。

がん患者や家族の支援に取り組むNPO法人「キャンサーリボンス」(事務局・東京)や関係各々が主催。両立に関する情報を、医師、がん経験者、同僚司書、行政など、様々な立場から伝えたい。

厚生労働省の「がん対策推進企業アクション」のメンバーの岡南里恵さんは、子宮頸がんの経験を経て、治療や人生設計について講演する。

参加無料、定員約40人。希望者は、所定申込書に氏名、住所、電話番号を記入して同館にファクスするか、直接来館、電話のいずれかで申し込む。定員を超えれば抽選となり、9月1日以降に招待状が届く。問い合わせは同館(0856-7・26・8100)。

2016年(平成28年) 8月23日

日本海 朝日 読売 日本経済 山陰中央新報

10日

★がん治療と仕事の両立支援セミナー
がん治療と仕事の両

立支援セミナー「働きが良くなる」が実施。締め切りは8月21日。問い合わせはと「がも月16日、鳥取市のがん医療立国書館で開かれる。午後1時～4時15分。

医師、がん治療中の患者とその家族、国書館員、行政関係者が、がんに関する情報、治療と仕事の両立、支援策について語る。入場無料だが事前申し込み

2016年(平成28年) 8月 23日

日本海 朝日 読売 日本経済 山陰中央新報

新刊 9 2 0 0 0 年

「國政の主人に一人が
かなる可能性があるとい
われてゐる國民的
「がん」。自分や家族が
がんと診断されたとき
「國政」について知り
たい」「治療法を知りた
い」「処方された薬に副
作用はあるのだろうか
か」「手術が不安」「これ
から働けるのだろうか
か」「夫と妻と子どもは
交やわ配があるのでは
ないでしょうか」。

国立図書館では、そ
んな患者の不安や疑
問を解決するために、

がん治療と仕事の
両立支援セミナー

癸卯年十月

[illegible]

「國語・文法指導サード」を出版して、随分と忙しんでいます。新記文集をリニューアルを行っています。新記文集、国語づくりや子供たちに関する本や雑誌、国語に關した書籍などをテーマに講演会を開催し、多くの先生方に参加していただき、場当たり的な活動だけでなく、あらためて国語の重要性を提供できるような場をつくりだすことを目指しています。7月に、関心の深さを実感しました。

は、新記文芸館開設した。

そして、来る日も山 ぬけの方法、山分がどう
日、「がん岩家と仕事 ぬけ、どう生きてきた
の因立す親をさすー かなという実情のがん岩
親を離れるためにでき 親をからの別説、鳥取
ることを、がん岩君 親の親友支援の取り組
さんの親友支援をして みや県立図書館の読書
いるNPO法人キャン 健康情報サービスマ
サーリボンス等と共に ど、がん岩家と仕事を
関係します。がん岩親 因立する上で役立つ情
の進歩により、岩親し 要を、県立図書館関係
ながら働くことは十分 がん岩親友、行政、関
可能な時代ですが、た 関係団体などさまさま
れにも相模原市、支 女立場からお話ししま
探問度も抑らないため す。ぜひ、ご参加くだ
に願ったり、職場で さい。

（岩親友立因立支援
の活動知識から最前情 手）
報、仕事と因立すきた

（大塚昌子掲載）

三、

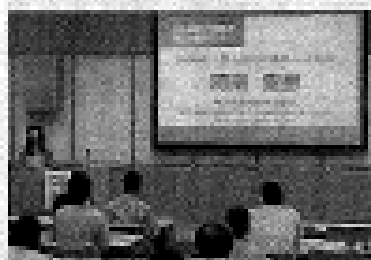
31 中国経済

中国

鳥取県が働くがん患者の「仕事」と「治療」の両立支援に力を入れている。県立鳥取がんセンターの「がん患者の労働相談」にワンストップで対応した。がん患者の労働相談にワンストップで対応した。がん患者の労働相談にワンストップで対応した。

がん患者の仕事・治療支援

鳥取県で取り組み進む



セミナーには多くの人が参加した。(鳥取県立図書館)

「がん患者の仕事・治療支援」をテーマにしたセミナーが、鳥取県立図書館で開催された。がん患者の労働相談にワンストップで対応した。がん患者の労働相談にワンストップで対応した。

図書館で講座／相談所を開設

鳥取県ががん患者の「仕事」と「治療」の両立支援に力を入れている。県立鳥取がんセンターの「がん患者の労働相談」にワンストップで対応した。がん患者の労働相談にワンストップで対応した。

鳥取県

鳥取県立がんセンター
〒680-0001 鳥取県鳥取市
0859-444411(代表)
0859-444412(受付)
0859-444413(相談)
0859-444414(予約)
0859-444415(FAX)